

安全研究審議会
第7回会合議事録（案）

・日時：平成22年1月27日（水）13：30～17：00

・場所：航空会館地下1階 B101 会議室（東京都港区新橋 1-18-1）

・出席者

委員：佐藤委員長（原安協）、松本委員長代理（原子力安全基盤機構）、草間（大分看護科学大学）、小林（大阪大学）、新田（原電）、三島（京都大学）、班目（東京大学）、山下（原子力安全基盤機構）
（順不同、敬称略）

オブザーバー：原子力安全委員会事務局、原子力安全基盤機構

原子力機構：横溝理事、石島センター長、平野副センター長、杉山副センター長、鈴木副センター長、村松研究計画調整室長、その他

・議事

1. 前回議事録の確認
2. 今後の評価の進め方について
3. 次期中期計画に向けて
4. 安全研究審議会報告書について
5. その他

・配付資料

資料 No. 安研審 7-1	安全研究審議会委員名簿
資料 No. 安研審 7-2	安全研究審議会第6回会合議事録（案）
資料 No. 安研審 7-3	今後の評価の進め方について
資料 No. 安研審 7-4	重点安全研究についての安全研究委員会等における所見等
資料 No. 安研審 7-5	次期中期計画に向けて(安全研究センターの基本的な考え方)
資料 No. 安研審 7-6	PSA 手法・事故故障および原子力防災に係わる安全研究
資料 No. 安研審 7-7	軽水炉利用の高度化に対応するための安全評価技術
資料 No. 安研審 7-8	材料劣化・高経年化対策技術に関する研究
資料 No. 安研審 7-9	核燃料サイクルおよび廃棄物・廃止措置の安全研究
資料 No. 安研審 7-10	高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究(2)
資料 No. 安研審 7-11	高速増殖炉の安全性評価技術に関する研究
資料 No. 安研審 7-12	放射線リスク・影響評価技術に関する研究
資料 No. 安研審 7-13	平成20年度安全研究審議会評価報告書(案)

<参考資料>

- 資料 No. 安研審参 7-1 第 6 回安全研究審議会速記録
資料 No. 安研審参 7-2 平成 19 年度安全研究審議会評価報告書
資料 No. 安研審参 7-3 原子力の重点安全研究計画(第 2 期)

議事

1. 理事挨拶

開会に先立ち、安全研究を担当する横溝理事より挨拶があった。

2. 前回議事録の確認

村松研究計画調整室長より、安研審 7-2 に基づき前回議事録について簡単に紹介があり、コメントがあれば事務局に送付していただくこととなった。

3. 今後の研究評価の予定について

村松研究計画調整室長より、安研審 7-3 に基づき、安全研究審議会における今後の研究評価の予定について説明があった。

4. 次期中期計画に向けて

各担当者より、安研審 7-4～7-12 に基づき、平成 20 年度までの主な成果と次期重点安全研究計画に沿った研究の方向性について説明があり、以下のような意見が出された。

- ・ 次期中期計画に向けて(安全研究センターの基本的な考え方)(資料 7-5)について、安全研究は、国民の信頼を得るために重要であり、研究の成果を国民に知らせることに十分配慮してほしい。
- ・ 次期中期計画に向けて(安全研究センターの基本的な考え方)(資料 7-5)について、人材育成は重要であるが、安全研究センターにおける人員確保の状況はどうなっているか？
 - －ここ数年間は毎年 1 名程度確保してきているが人員確保は厳しい状況にある。安全研究審議会として、安全研究における人員確保の必要性を経営層に向けて勧告でもしていただければ幸いである。
- ・ 原子力防災に係わる安全研究(資料 7-6)について、地方自治体への支援とは具体的にどんなことを行ったのか？
 - －原子力事故が起こった場合の避難施設の被ばく低減効果について解析し、技術的な情報として提供した。
- ・ PSA 手法に係わる安全研究(資料 7-6)について、耐震安全に関する検討が重要な課題と考えているが、計画の中に地震関連のものがないように見えるがどう

なっているのか？

－10年程前には、地震PSAが主なる研究テーマであり、開発した手法や人材は、原子力安全基盤機構に移管したという経緯がある。今後は核燃料サイクル施設を対象とした計画を実施したいと考えている。

- ・ 軽水炉利用の高度化に対応するための安全評価技術(資料 7-7)について Post-BT など、新しい安全評価手法について、現行の規制の判断基準がこのままでよいか検討してほしい。
 - －現行の判断基準は十分な保守性を持っているため、それが制約となって最適評価(BE)手法等、新手法の導入が阻害されている面がある。
- ・ 廃止措置の安全研究(資料 7-9)について、クリアランス検認手法の検討では、具体的に何をするか？
 - －従来に比べて詳細なモデル化を試みたいと考えており、海外からの問い合わせがある。
- ・ 高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究(2)(資料 7-10)について、マネジメントシステムのユーザーは誰を想定したものか？
 - －事業者、規制者、選択地住民などのステークホルダー全般を想定しているが、研究成果を収録している関係上、一般の方に専門用語をわかりやすくする努力が必要と考えている。
- ・ 放射線リスク・影響評価技術に関する研究(資料 7-12)について、線量評価の分野で ICPR に貢献していることなど、もっと宣伝すべきと思う。

5. 安全研究審議会報告書について

村松研究計画調整室長より、安研審 7-13 に基づき、平成 20 年度安全研究審議会評価報告書(案)について説明があり、コメントがあれば事務局まで送付していただくこととなった。

6. その他

村松研究計画調整室長より、次回の開催については、事後評価をお願いすることとしており、原子力安全委員会の評価の日程も踏まえ、決定したい旨、連絡があった。